

人文会ニュース

jinbunkai news

August 2019

NO. 132

1 代表幹事挨拶

田崎洋幸

2 図書館レポート

日販図書館選書センターの歩みとこれから
—— 小中学校図書館選書の現場報告

渡邊真嗣

19 書店現場から

ハイブリッドな現場としての書店
—— イベントの取組みの紹介を通して

磯前大地

25 編集者が語るこの叢書・このシリーズ ⑬

《中世から近世へ》シリーズ、刊行の経緯など

坂田修治

委員会活動方針

人文会活動報告

人文会年次総会報告



www.jinbunkai.com

流れといのち

万物の進化を支配する
コンストラクタル法則

エイドリアン・ペジャン／柴田裕之訳 木村繁男解説

「100冊のビジネス書を読むより
本書1冊を丹念に読むほうがずっとよい」

米国版ノーベル賞とされるフランクリンメダルを受賞した著者が提唱する法則は、富や資源、社会、時間や死までも支配し、様々な事象の見方を覆す。
▼ 本体価格2200円＋税

京都大学大学院教授 鎌田浩毅

鬼才ペジャンの第2弾!

紀伊國屋書店 出版部：東京都目黒区下目黒3-7-10
営業TEL 03(6910)0519

文化的進化論

人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる
ロナルド・イングルハート／山崎聖子訳 本体3000円＋税
40年に及ぶ調査データから、人びとの価値観の転換が社会をどう変容させるのかを分析する。

〈島〉の科学者

パラオ熱帯生物研究所と帝国日本の南洋研究
坂野徹 本体4700円＋税
日本統治下のミクロネシアに存在したパラオ熱帯生物研究所と、南洋群島で活動した人々の軌跡を描く。

フィラデルフィアの精神

グローバル市場に立ち向かう社会正義
フランシスコ・橋本一徳 監修 本体2700円＋税
人間の尊厳は経済活動に劣るのか? グローバル資本主義に立ち向かうための新たな処方箋。

勁草書房 TEL 03-3814-6861
FAX 03-3814-6854
〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
<http://www.keisoshobo.co.jp>

慶應義塾大学出版会

<http://www.keio-up.co.jp/>

真実が揺らぐ時

―ベルリンの壁崩壊から9.11まで

トニー・ジャット著／ジェニファー・ホーマンズ編／河野真太郎・西亮太・星野真志・田尻歩訳 1989年の革命、9.11の犠牲、イラク戦争、深まる中東の危機――。飽くことなく真実を追究した知識人、トニー・ジャットの魂の軌跡。 ◎5,500円

ナチズムは再来するのか?

―民主主義をめぐるヴァイマル共和国の教訓
A・ヴィルシング、B・コーラー、U・ヴィルヘルム編／板橋拓己・小野寺拓也監訳 民主主義は危機にあるのか? ドイツを代表する研究者たちが、現代との共通点をさぐり、歴史の経験から警鐘を鳴らすエッセイ集。 ◎1,800円

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30 【価格税抜】
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

信田さよ子

衝撃の最新刊!

〈性〉なる家族

定価(本体1700円＋税)



大反響をよんだ連載の書籍化。性虐待、DV、セクハラ、不妊治療など、タブー視されがちな性の問題を軸にしたまったく新しい視点の家族論。

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6
☎ 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384

○web春秋 はるとあき 人気連載更新中!
<https://haruaki.shunjusha.co.jp/> ⇒

代表幹事挨拶

みずず書房 田崎洋幸

二〇一九年五月十五日に行われた、人文会年次総会において代表幹事に再任されました。書記幹事の片桐幹夫氏（晶文社）、会計幹事の平石修氏（御茶の水書房）も再任となりました。委員会構成も変更はなく、〈販売・企画〉・〈調査・研修〉・〈広報〉の三委員会制を継続いたします。各委員会の委員長兼幹事として、〈販売・企画〉委員会委員長の朝倉哲哉氏（法政大学出版局）、〈調査・研修〉委員会委員長の水口大介氏（創元社）、〈広報〉委員会委員長の岩野忠昭氏（白水社）には、引き続き重責を担っていただくこととなりました。また、〈販売・企画〉委員会副委員長に森卓巳氏（青土社）、〈調査・研修〉委員会副委員長に片山伸治氏（吉川弘文館）、〈広報〉委員会副委員長に乙子智氏（慶應義塾大学出版会）の三氏が就任いたしました。創立五十周年を無事に迎え、様々なイベントを開催できたことに感謝しつつ、出版業界に貢献する人文会として評価されるよう、引き続き、邁進したいと思っています。

残念なお知らせもございます。今年度をもちまして、株式会社未来社が退会することとなりました。オリジナルメンバーと言っても過言ではないほど、初期からの活動に貢献くださいましただけに大変残念です。また誠信書房が二年連続の休会となりましたことを併せてご報告させていただきます。

難しい状況に置かれている出版業界ではありますが、知恵と勇気を持ち寄ることで打開することは可能に思えます。一人でも多くの読者の方々に本をお届けするためにも、関係各位との連携を更に深めたいと思います。今後とも協力、どうぞよろしくお願いいたします。

日販図書館選書センターの歩みとこれから——小中学校図書館選書の現場報告

渡邊 真嗣（日本出版販売株式会社 図書館営業部図書館選書センター）

学校図書館向けの「日販図書館選書センター」（以下、選書センター）が呱呱の声をあげたのは、2016年12月のことである。墨田区業平にあった前身の「東京ブックセンター」を閉館するとともに、ここを選書の場として利用いただいていた図書館司書の選書の場を確保する目的で、千代田区麹町にオープンしたのである。

東京ブックセンターでは、取引書店の店売機能と、図書館司書の現物選書機能を兼ねていたため、商品構成や選書環境は、必ずしも図書館選書に最適なものであったとは言えない。事実、2015年度の図書館利用は約250校館程度と、年々、漸減傾向であった。対して、2018年度の選書センターの利用館は、年間約1300校館。2019年6月には、のべ3000校

館を突破した。本稿では、この2年間の歩みを振り返るとともに、選書センターの今後を考察したい。

1 学校図書館の選書

まず、本稿で「学校図書館」と言うと、小中学校図書館を指すものとさせていただく。

学校図書館法では、学校図書館の専門的職務を担う教員として、「司書教諭」を学校に置くこととしている（学級数が12学級以上の学校には、必ず司書教諭を置かなければならないと設置義務化が図られている）。

司書教諭は、教諭として採用された者が学校内の役割として司書職務を担当し、学校図書館資料の選択・収

集・提供や子どもの読書活動に対する指導、さらには、学校図書館の利用指導計画を立案し、実施の中心となるなど、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う。

一方、教員としてではなく、事務職員として採用された者が学校図書館に勤務する場合を「学校司書」と呼び、学校図書館法では「置くよう努めねばならない」とされている。明確に役割は異なるが、世間一般には混同されがちである。本稿での詳説は避けるが、文科省のホームページで「司書教諭」と「学校司書」及び「司書」に関する制度上の比較⁴が公開されているので、参照されたい。

学校図書館に入れるべき書籍を選定する場合（自治体や学校ごとに運用はまちまちだが）、司書教諭が作成した学校図書館利用計画に基づき、学校司書と相談。各教科の教諭の意見を含め、購入リストを作成後、学校長の購入決裁を経て、図書納入業者に発注するという流れが一般的である。

この流れからもわかるように、学校司書は、教諭の学習指導を図書のレファレンスや活用の方面から支援し、

適切な図書購入を行うことで学習支援を行う存在だ。図書購入のための選書の機会として代表的なものは、取次会社が主催する司書向けの展示会、納入事業者や取次会社、出版社などが発行するカタログ、各巡回グループによる学校巡回販売、書店店頭での選書、納入事業者が提供するオンライン発注システム……とさまざまではあるが、同じテーマの複数の書籍を並べて見比べ、教諭の指導レベルにあわせて選定できる「現物選書」の機会は限られたものだ。

選書センターは、こうした学校の「現物選書」のニーズを満たすために誕生した施設なのである。

2 「日版図書館選書センター」の運営およびコンセプト

選書センターは、午前・午後それぞれ40名上限での予約制である。回遊性を確保し、じっくりと選書いただきたいからだ。

展示書籍はすべて日本十進分類法（NDC）に基づき展示しており、配架検索を容易にした。利用者には一人一台のハンディターミナル（写真1）を貸与、ユーザーは



写真1 ハンディターミナル

書架を回遊しながらISBNコード・価格コードをハンディターミナルで読み込みを行う。選書終了後はハンディターミナルに蓄積した選書データをPCの選書システムに取り込み、選書リストを紙で出力する。この選書リストは学校への納入業者がひもつけられ、見積もりもしくは発注書として使用できる。

「理想の図書館づくりをサポートする」ことをコンセプトとしてスタートさせた選書センター。文部科学省が学校図書館の果たす役割として、「主体的・対話的で深い学びを効果的に進める基盤」としての存在を期待していることから、①図書館資料の充実に応える ②アクティブ・ラーニングの視点からの学びを支援する ③司書教諭および学校司書の資質向上に役立つ情報を提供することを念頭に運営している。

①図書館資料の充実に応える

書店店頭に委託配本されない図書館専売書籍、特別支援学校向けの大型絵本なども含め、展示図書は約3万冊。既刊は、前年度の学校図書館納品の上位銘柄を基本在庫

として選定。新刊について(特に児童書)は、日販の新刊配本とともに展示を開始する。

児童書以外の新刊については、JPRO(出版情報登録センター)の近刊情報や出版社からの新刊案内、取次広報誌などを基に、常駐する3名のコンシェルジュが発注する。コンシェルジュは、それぞれに担当する分類があり、選書センターに展示するまでに必ず内容に目を通し、学校に入るべき商品かどうかをチェックしたうえで配架を行う。このチェック体制により、学校司書は安心して選書を行うことができるのである。

学校図書館特有のセット商品については、約1500セットを取り揃える。これは、図書館流通センター(TRC)の「学校図書館のためのブックカタログ」掲載商品と同期をしている。

このように、選書センターでは学校図書館からの多様なニーズに対応する展示量を確保しているが、分類ごとの在庫比率は表1の通りである。この比率は、年間の選書状況を踏まえ、年2回(9月・3月)の商品入れ替え時に見直す。

表1 分類ごとの在庫比率

NDC	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術・工学
SLA 標準	5.4%	2.7%	15.3%	9.0%	13.5%	5.4%
選書 シェア	4.5%	2.5%	9.6%	10.5%	15.7%	6.3%
在庫 シェア	3.9%	2.3%	8.6%	9.5%	15.4%	6.5%

NDC	6 産業	7 スポーツ・ 芸術	8 言語	9 文学	E 絵本
SLA 標準	4.5%	7.2%	4.5%	22.5%	10.0%
選書 シェア	5.6%	10.6%	4.2%	19.7%	10.7%
在庫 シェア	6.3%	8.5%	5.0%	19.5%	14.5%

②アクティブ・ラーニングの視点からの学びを支援する

特に調べ学習をする機会が多い理科・社会科・国語科については教科別コーナーを別置して対応している(写真2)。

教科書や学習項目を調査し、単元別の調べ学習に適した図書一覧を配布し、選書の一助としている。アクティブ・ラーニングと、新指導要領への対応については、後述する。

司書だけでなく、図書委員会に所属する生徒の来場もある。夏休みなど長期休暇中、図書委員会活動の一環として来場、司書教諭・学校司書とともに自校の図書館蔵書の購入候補を生徒に選書させるといったものである(写真3)。生徒自ら選書を行うことで、自主性を養い、自館の蔵書に対する興味・関心を高めてもらう役割も果たしているのである。

③司書教諭および学校司書の資質向上に役立つ情報を提供する

選書センターでは、イベントに使用できるコミュニ



写真2 教科別展示コーナー

セッションスペースを有しており、毎月第二土曜日にセミナーを開催している。このスペースは、机使用時最大40名、椅子のみの利用の場合は最大50名のキャパシティ。セミナーは、2019年6月までに計25回、のべ約700人の参加実績がある(写真4・5)。

ちなみに2019年度は、5・6月のセミナーの開催回数を実験的に増やした。「自治体の研修が物足りない」「土曜日開館を増やしてほしい」「無料の研修会は本当に有難い」というユーザーの声に応えたものだ。

内容は月によってさまざまである(表2参照)が、「学校ですぐ実践できる」テーマ設定をしている。これは、配置が進む初任の学校司書のために、セミナーで得た知識を学校現場で生徒・教員とのコミュニケーションにすぐ使うことができるように意識しているためだ。

セミナーは、知識の向上はもちろんであるが、他区、他市の図書館司書が一堂に会する貴重な機会でもあるため、司書同士の情報交換の場としても使用されている。セミナー終了後の講師との質疑が白熱し、設定時間を超えることもしばしばである。

また、コミュニケーションスペースは、各自治体の教



写真3 生徒が選書をする様子



写真4 セミナーの様子(コミュニケーションスペース)



写真5 著者講演会も実施
(ファンキー中村氏「道徳怪談会のすすめ」の様子。照明を落として雰囲気たっぷりに)

表2 2019年度 選書センターセミナー一覧

日時	講師	テーマ
4月13日	帝国書院 山口優氏・大平原寛氏	『DOOR』を使った国しらべワークショップ
5月11日	赤木かん子先生	自然科学書の棚の作り方
5月25日	森田盛行先生(全国SLA前理事長)	廃棄も大事な仕事です
6月8日	ファンキー中村先生講演会	道徳怪談会のすすめ
6月22日	高岡容子先生	図書館のための簡単な本の修理
夏休み① 7月30日	汐文社 岡崎大輔氏	「かわいいパッケージクラフト」 ワークショップセミナー
夏休み② 8月6日	ポプラ社 齋木小太郎氏	「世界の国を調べよう！」 ワークショップセミナー
9月14日	調べ学習研究会「調之森」 丸山光枝先生	子どもの「なぜ?」「ハテナ?」が、「わかった!」に「やってみよう!調べ学習」
10月12日	浦和第一女子高等学校 木下通子先生	ビブリオバトルをやってみよう!

育委員会や全国学校図書館協議会(全国SLA)による司書研修の場としても使用され、地域発展にも貢献している。各種団体、司書会などの利用も相談可能。お問い合わせいただきたい。

3 「日版図書館選書センター」の選書傾向

開所来の3000校館の来館内訳は、小学校65%、中学校30%、公共・高等学校など5%となっている。ユーザーは、学校司書が多いが、司書教諭や教育委員会の指導主事、校長・教頭などの来館もある。一都三県からの来館が9割を占めるが、北海道・鹿児島まで幅広い地域からの来館実績もある。教員の研修会や図書館総合展などのイベント時に、来館いただくことが多いようだ。選書の内訳(金額ベース)としては、セット図書が52%、単品図書が48%と拮抗。近年の傾向としては、徐々にではあるが単品志向が高まっていると言える。

表3、表4は2018年度の年間選書ベスト、2019年度第1四半期選書ベストである。学校が学習資料の充実を図っていること、それにあわせて、調

表3 2018年度年間選書ベスト

セット

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格
1	9784265108749	政治のしくみを知るための 日本の府省 しごと事典	岩崎書店	22,400
2	9784338313001	都道府県別 日本の地理データマップ 第3版	小峰書店	29,400
3	9784338316002	くらべよう! どうぶつの赤ちゃん	小峰書店	15,400
4	9784309864174	5分後に味わう感動、恐怖、美しさ… 5分シリーズ 朝読セット	河出書房新社	5,880
5	9784807164028	DOOR 208の国と地域がわかる国際理解地図	帝国书院	5,600
6	9784811311913	楽しいバスレクアイデアガイド2	汐文社	4,800
7	9784265108756	3つの東京オリンピックを大研究	岩崎書店	10,800
8	9784591917152	ルールと見どころ! オリンピック・パラリンピック全競技	ポプラ社	18,000
8	9784251905604	わかったさんとおかしをつくらう!	あかね書房	3,600
8	9784323933351	古い道具と昔のくらし事典	金の星社	7,800

小学校単品

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格	発行年月
1	9784265084463	鳥獣戯画を読みとく	岩崎書店	3,600	2017/11
2	9784866070544	失敗図鑑	いろは出版	2,700	2018/03
3	9784879816283	学校ブールのヤゴのなぞ	少年新聞出版社	1,500	2018/01
4	9784564009471	改訂新版 辞書びきえほん もののはじまり	ひかりのくに	1,800	2018/02
5	9784265084456	鉱物・宝石のひみつ	岩崎書店	3,600	2017/10
5	9784022208194	朝日ジュニア学習年鑑 2018	朝日新聞出版	2,300	2018/03
7	9784566080355	またまた ねえ、どれがいい?	評論社	1,500	2018/06
8	9784309279305	世界一おもしろい国旗の本	河出書房新社	1,800	2018/03
9	9784471103644	さんねんないきもの事典	高橋書店	900	2016/05
10	9784471103699	さんねんないきもの事典 続々	高橋書店	980	2018/05
10	9784591154441	あるかしら書店	ポプラ社	1,200	2017/06

中学校単品

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格	発行年月
1	9784053047168	わけがわかる中学社会	学研プラス	1,100	2018/03
2	9784756247445	プロに教わる 1秒で心をつかむPOPのつくり方	バイインターナショナル	1,900	2016/03
3	9784053047175	わけがわかる中学理科	学研プラス	1,100	2018/03
3	9784053046758	やる気を出したい人成績を上げたい人のための 中学の勉強のトリセツ	学研プラス	980	2018/03
5	9784791627035	オールカラー 地図と写真から見える! 京の都 歴史を歩く!	西東社	1,100	2018/03
6	9784473021205	京都の古社寺	淡交社	1,200	2016/04
7	9784778316150	図解でわかる 14歳から知っておきたいAI	太田出版	1,200	2018/01
8	9784396635404	房総グランホテル	祥伝社	1,400	2018/03
9	9784022514745	星の子	朝日新聞出版	1,400	2017/06
10	9784591156681	スイート・ホーム	ポプラ社	1,500	2018/03

表4 2019年度第1四半期選書ベスト

セット

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格
1	9784591917695	ボブラディア ブラス 世界の国々	ポプラ社	40,000
2	9784807164035	DOOR 208の国と地域がわかる国際理解地図	帝国書院	14,000
3	9784338325004	世界の文化と衣食住	小峰書店	12,000
4	9784265108749	政治のしくみを知るための 日本の府省 しごと事典	岩崎書店	22,400
5	9784591917152	ルールと見どころ! オリンピック・パラリンピック全競技	ポプラ社	18,000
6	9784811312088	参加しよう! 東京パラリンピックとバリアフリー	汐文社	6,900
6	9784338316002	くらべよう! どうぶつの赤ちゃん	小峰書店	15,400
8	9784406062879	私たちの地球環境と天然資源	新日本出版社	18,000
9	9784591917725	調べよう! バリアフリーと福祉用具	ポプラ社	14,500
10	9784811312200	和の文化を発見する 水とくらす日本のわざ	汐文社	8,400

小学校単品

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格	発行年月
1	9784893096487	あめだま	ブロンズ新社	1,500	2018/08
2	9784865491654	ひなにんぎょうができるまで	ひさかたチャイルド	1,300	2019/01
3	9784309279305	世界一おもしろい国旗の本	河出書房新社	1,800	2018/03
4	9784265086320	ひろって調べる 落ち葉のずかん	岩崎書店	3,600	2018/11
5	9784415318530	小学生の自由研究パーフェクト 3・4年生	成美堂出版	800	2014/07
6	9784907150068	おまかせ自由研究&調べ学習	朝日学生新聞社	1,200	2013/07
7	9784863895010	十年屋 2 あなたに時をあげましょう	静山社	1,200	2019/02
8	9784415318547	小学生の自由研究パーフェクト 5・6年生	成美堂出版	800	2014/07
10	9784097267775	そうだったのか! しゅんかん図鑑	小学館	1,300	2018/02
10	9784092701120	津田梅子	小学館	850	1997/11

中学校単品

順位	ISBN	書名	出版社名	本体価格	発行年月
1	9784405012349	かなり役立つ! 古文単語キャラ図鑑	新星出版社	1,200	2019/01
2	9784791627035	オールカラー 地図と写真から見える! 京の都 歴史を歩く!	西東社	1,100	2018/03
3	9784537216264	色と性格の心理学	日本文芸社	1,300	2018/10
4	9784756247445	プロに教わる 1秒で心をつかむPOPのつくり方	バイインターナショナル	1,900	2016/03
5	9784278084139	10代のための仕事図鑑	大泉書店	1,400	2017/04
6	9784053046758	やる気を出したい人成績を上げたい人のための 中学の勉強のトリセツ	学研プラス	980	2018/03
7	9784087734898	僕には世界がふたつある	集英社	2,200	2017/07
10	9784862554451	恋するいきもの図鑑	カンゼン	1,000	2018/02
10	9784788913226	中学生の悩みごと	実務教育出版	1,300	2017/09
10	9784046017338	中学一冊目の参考書	KADOKAWA	1,000	2017/03



写真6 ポプラ社『ポプラディア プラス 世界の国々』



写真7 帝国書院『DOOR 208の国と地域がわかる国際理解地図』

べ学習に適した書籍の在庫比率を高めていることから、3類(社会科学)、4類(自然科学)、7類(スポーツ・芸術)のジャンルが好調だ。なかでも道徳、英語、プログラミング、キャリア教育、バリアフリー、オリンピック・パラリンピック、部活動関連などのテーマは別置しフェア展開を行っている。2019年度は国際理解・地理学習関連商品の動きが好調だ。首都圏を中心に、オリンピック関連で国調べ学習が推進されているのはもちろん、2020年度から実施される新学習指導要領では、地図帳の配布が小学校3年生に前倒しされることも影響している(現行は小学校4年生で配布)。ポプラ社『ポプラディアプラス 世界の国々』(写真6)、帝国書院『DOOR 2008の国と地域がわかる国際理解地図』(写真7)、学研プラス『国別大図解 世界の地理改訂版』、ミネルヴァ書房『ランキング図鑑シリーズ』などがその代表的なシリーズ。

一方、9類(文学)では、名作はすでに学校図書館に蔵書されているものも多く、買い替えが進んでいない状況も見えてくる。学習資料を揃えることで購入予算が尽きてしまう現状もあるようだ。選書センターでは、絵本専

門士に協力を仰ぎ「知られざる名著」を学校司書に提示したり(写真8)、全国SLAが選定する「緑陰図書」「えほん50」を展開するなど、読み物との出会いを演出している。

夏休み期間内は生徒の来館が多くなる。この時期には9類の選書比率が飛躍的に伸びるのである(平月は20%程度だが、夏休み期間内は30%以上になる)。

これは、先生Ⅱ学習資料を揃えたい、生徒Ⅱ好きな本を図書館に入れたいという意識の表れであろう。選書センターに来館する図書委員の生徒たちは、本当に本好きだ。昨夏、筆者は一人の生徒に、「海外のハードSFでおすすめは何ですか?」と問われ、舌を巻いたものである。

2020年度には、教科書改訂を控えることから、教科書掲載本の選書が今後増えてくることが予想されるが、テーマとしては、SDGs(持続可能な開発目標)、女性の社会進出、LGBT、伝統文化、お金(税金)、STEM(Science, Technology, Engineering, Mathematics)教育、多文化圏理解などが注目だ。特にSDGsは、17のグローバル目標に対し、それに比肩するテーマ設定の調べ学習ができることから、学習活動の中でも特に注目



写真8 「学校図書館を楽しむ絵本レシピ」のコーナーでは、
絵本専門士のおすすめコメントを付けて展開

度が高い。小中学生向けの解説書も揃いつつあり、しっかりとフォローしていきたい。

4 「日版図書館選書センター」の役割と今後

2020年度から小学校では新学習指導要領が完全実施となる。ここで、新学習指導要領に触れておきたい。

新学習指導要領の大きなテーマは、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現」としている。「社会に開かれた」というのは、「子どもたちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる」、また、「教育関係者が共有」したり「家庭や地域、社会の関係者が幅広く活用」できたりすることを指す。「学校・家庭・地域関係者が幅広く共有し活用できる『学びの地図』（※中学校学習指導要領解説 総則編から引用）とも表現されている。

新学習指導要領を「学びの地図」として機能させるため、学習する子どもたちの視点にたち、

①何ができるようになるか

②何を学ぶか

③どのように学ぶか

④子ども一人一人の発達をどう支援するか

⑤何が身に付いたか

⑥実施するために何が必要か

を、「カリキュラム・マネジメント」のもと、PDCAサイクルを回し、学校教育の充実を図ることとされている。殊、「③どのように学ぶか」という点においては、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」を提示し、各教科での実践を求めているのである。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善として、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）」（2016年12月）では、3つの視点を挙げている。

①主体的な学び

↓学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形

成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」ができているか。

②対話的な学び

↓子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

③深い学び

↓習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

その観点から、同年、文科省が示した「学校図書館ガイドライン」においては、学校図書館は、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニングの視点からの学び）」を効果的に進める基盤としての役割も期待されてお

り、例えば、児童生徒がグループ別の調べ学習等において、課題の発見・解決に向けて必要な資料・情報の活用を通じた学習活動等を行うことができる」よう改善することが必要だとした。

司書教諭と学校司書は、①学校図書館を教育の中心に据え、②学校図書館を使ってアクティブ・ラーニングを推進しなければならないのである。

しかしながら、司書教諭Ⅱ教育学を学んできた教諭、学校司書Ⅱ図書館学を学んできた司書という立場の違いがある。また、常勤・非常勤の差があり、そもそも学校司書が配置されていない学校もある（文科省・平成28年度「学校図書館の現状に関する調査」では公立小学校の学校司書配置率は59・2％）。アクティブ・ラーニングを推進すべき両輪が、一体となり切れていない状況が見えてくる。

選書センターは、そんな両者を、「本」というメディアを媒介として「繋げる」ことができると思っている。司書教諭は指導内容や学習項目を、学校司書はレファレンスと情報リテラシーを持ち寄り、一冊の本を手に取りながら議論し、より良い指導方法を模索し実践する。そ

んな繋ぎの場になりたいと考えているのである。

5 最後に

学校に勤務している司書教諭・学校司書の先生方は、本そのものには詳しい方が多い。しかし、本がどういう過程で作られ、流通し、生徒の手に届くのかという事情については疎い方が大半だ。「学校に配達に来てくれる書店にしか会わない」という先生方も多い。

セミナーや企画展示（写真9）には、出版社に協力いただき、直接、司書との繋がりを持っていたく機会を作っている。将来的には、出版社と学校の意見交換会を開催し、その意見を、書籍の新しい企画に反映、学校に蔵書して学習に利用してもらおう。そんなサイクルを選書センターが生み出せたら、と考えている。選書センターは、図書館に関わる全ての方々に門戸を開放しているつもりだ。見学もお受けしている。ぜひ、ご来館いただき上手く使っていただきたい。

最後に、セミナーの開催や企画展示は、出版社の方々のご協力なくしては成り立たない。御礼を申し上げますと



写真9 出版社からの申し込み制で展示棚を貸し出し。
出版社のおすすめ本を手軽に把握できる



選書センターのスタッフ

ともに、これからもご相談し、甘えさせていただくつもりだ。引き続きのご支援をお願いする次第である。



日販図書館選書センター ご案内

営業時間：木曜日の午前を除く平日10時～17時

※毎月第1木曜日は終日休業

選書時間：①10時～12時半 ②14時～16時半

※セミナー開催の土曜日は12時～14時

来場申込：事前予約制とさせていただきます。

休業日：土・日・祝日、年末年始、お盆期間、毎月第1木曜日

※棚卸・商品入替など、臨時休業をさせていただく場合がございます。

【所在地】

東京都千代田区麹町3丁目7番地4 秩父屋ビル4F

TEL：03-3288-5055

FAX：03-3288-5060

東京メトロ有楽町線 麹町駅 1番出口より徒歩2分

東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅 1番出口より徒歩2分

—書店現場から—

ハイブリッドな現場としての書店

——イベントの取組みの紹介を通して

磯前 大地（くまざわ書店八王子店）

全国展開の書店として

全国各地に店舗を抱えるくまざわ書店は、これまで学習参考書、児童書や実用書などによい本屋として知られてきた。こうした分野で信頼をえることの意義は大きく、地域とそこで生活をする人々と密につながることを意味する。だとすれば、書店には読者との関係をさらに深めてゆく可能性が秘められているのではないだろうか。たとえば、いまだ定型化されていない本屋の新たな機能を読者に印象づけることが可能なのではないか。筆者は、店舗を訪れる人たちに、全国チェーンとして安定した配本力を保持することに加えて、個性豊かなセレクトショップのような趣を感じてもらおうことを思い描いている。

ただし、そのさいに全国チェーン／セレクトショップという単純な二項対立に還元することなく、その両者の交差する領域に意識をむけることが大切だと考える。たとえば、取次の配本にも

とづく新刊・話題書の潤沢な展開を活かしながら、書店員のユニークな選書による既刊の古典・名著を紐づけた展開や自企画のフェア開催などが最初の方法として挙げられるだろう。さらにここでは、もう一つべつの方法として、店舗でイベントを開催することの意義を述べたい。以下では自身の体験をふまえながら、社の実績をとおして現場のもつ力と可能性について記してみよう。

店舗でイベントを開催する意義

2017年9月、J・R千葉駅ビルにオープンしたペリエ千葉本店。そのオープニングスタッフとして、人文書をふくむ専門書全般の担当のほか、従事したのがイベントの企画および開催であった。はじめて受けもつ役割ゆえに手探りで臨んだ業務だが、問題意識として抱えていたことは、これまでチェーンが培ってきた、万人が楽しむことのできる児童書を中心とした企画などを実施する一方で、他の書店との差異化をはかる企画を、前者と両立させるかたちで実現することであった。

のちにくまざわ書店初の人文分野における催事開催から継続的な展開につながるその課題は、いいかえるならば、従来の当チェーンの基本的なかたちを保ちながら、そこには収まりきらない剰余の部分を際立たせることに目的があった。そしてそれは、出版業界ひいては社会における書店の役割を考えたときに、その現場が、出版社、取次、書店、読者の四者が交わりそれぞれが変容してゆける場所として機能していく、という課題へとつながりをみせた。

業界四者が交わる場所

以下、企画・開催にかかわったイベントの一部を列挙する。

- ・赤坂憲雄×石内都×梯久美子「見えないものを表す——痛みの、その先へ」(於・ペリエ千葉本店)
- ・若松英輔「石牟礼道子への扉」(於・ペリエ千葉本店)
- ・梯久美子「梯久美子さんが語る 原民喜 千葉での愛の日々と、その生涯」(於・ペリエ千葉本店)
- ・赤坂憲雄×梯久美子×栗原康「はたらかないで、ひたすら書きたい——国木田独歩、原民喜、栗原康の場合」(於・ペリエ千葉本店)
- ・小林えみ×白石正明「第1回 話題の編集者と考える本のこと——なぜ今、本をよむのか」(於・ペリエ千葉本店)
- ・小林浩×竹内涼子「第2回 話題の編集者と考える本のこと——なぜ今、本をよむのか」(於・ペリエ千葉本店)
- ・下平尾直×渡部朝香「第3回 話題の編集者と考える本のこと——なぜ今、本をよむのか」(於・ペリエ千葉本店)
- ・赤坂憲雄「トークショー 多摩、武蔵野の文化的可能性」(於・八王子店)
- ・秋満吉彦×駒井稔「甦る古典、受け継がれる名著」(於・ペリエ千葉本店)
- ・清田義昭×小林浩「トークショー 書店の未来、そして読者の未来」(於・武蔵小金井北口店)

・島蘭進×西谷修「令和改元の今、大正改元を問いなおす」(於・八王子店)

こうしたイベントが実施されてゆくなか大きな転換点となったのが、シリーズ3回にわたる「話題の編集者と考える本のこと」であった。当初は、読者が気鋭の編集者の解説のもと既存の棚と在庫を眺めながら書店内をまわるという、流動性の高い、一回きりのいわゆる「選書ツアー」形式として提示された本企画は、小林浩(月曜社)、小林えみ(堀之内出版)、下平尾直(共和国)の協力により、大きく姿をかえてゆく。

出版社と店舗によりマッシュアップされた企画は、編集者同士がじっくりと腰をすえ、影響をうけた本、編んだ本、自らの仕事において意識している点などについて、実際にそれらの本を手にとりながら、書店という現場で生の読者に対して話をするという、従来よりも混交性の高い形式となった。そして、質疑応答をふくめた本をめぐる交流をつうじて、本のもつ可能性、敷衍して各々の環境や社会のこれからを考えることが目的とされた。

ここで、実際にイベントが開催され印象的であったことは、当初は参加者の多くが業界関係者で占められていた状態から、立ち見もふくめて次第に一般読者の比率が増えていったことである。そうした変化は、書店という現場が、出版社にとっては理想化された表象ではない生の読者とふれあう場所として、読者にとっては出版の裏舞台をしり文化や本との距離が変わりうる場所として、そして仲介者である書店の人間もまた職場がもつ可能性を知り変容していかざるをえないような場所として、ハイブリッドに機能することを十分に感じさせるものであった。

生成変化の拠点として機能する現場

登壇者がイベントに準ずる選書をし、事後にわたって長く店舗で展開していたフェアもまた、堅実に、そして銘柄によっては驚くような売上を記録した。編集者が選書をし、取次を経由して全国チェーンの書店に届いた本を読者が現場で購入することで、各々が変わってゆく。先のイベントに象徴されるように、この業界四者が収斂する場所としての書店は、その空間が近年論じられがちなステレオタイプな本屋像にとどまらないことを意味している。

出版業界の最前線ではたらく人間として戸惑いを隠せないことの一つに、とりわけSNSを中心に、書店に期待されていることとして抽象的なノスタルジーや感傷性が少なくないことにあつる。ウェブ上の無垢で倫理的な印象論ばかりが際立ち、具体的な現場の機能には言及されない書店員（の姿。一義的に、そのような生き生きとした光景に問題があるというわけではないが、現場の今の、あるいは生の状況を冷静に眺めることなしに、「本屋はまだまだこれからなんだ」「こんなに素朴で魅力的な場所なんだ」と、大文字の言葉ばかりが語られる風潮には違和感を覚えざるをえない。そのような状況とは裏腹に、前述のイベントにおいて示されたように、書店現場はそこにとどまることのない現実変革の可能性を具体的なものとして秘めている。

千葉の地から始まった人文社会科学のイベントは、現在では他のくまざわ書店の店舗においても実施されるようになり、徐々にその拡がりをみせている。そこに成立する坩堝では、そのそれぞれに訪れかわる人が生成変化をしてゆく可能性を孕んでおり、その意味において書店の現場



筆者 近影

は、新たな主体が成立する前の卵のような状態だといえるだろう。それを考えたときに、出版業界も人文社会科学という分野も、ただ斜陽である可悲嘆にくれるには早いはずだ。少なくとも、自身が所属するチェーンにおいては、大いにできることがあると感じている。

磯前 大地（いそまえ だいち）

《中世から近世へ》シリーズ、刊行の経緯など

坂田 修治（平凡社編集部）

シリーズを紹介することが私に与えられたお題であるが、少し助走が長くなりそうなのが心苦しい。けれども、本シリーズが編集者ひとりの日々の営みから生み出されたものである以上、そこに至った変遷を述べることは避けられないので、しばし字数を費やすことをお許し願いたい。

歴史分野に接近する

二〇〇五年から別冊太陽編集部に所属し、美術分野と明治・大正・昭和の文豪に焦点をあてたムックを制作していた。編集部として年間十五〜十六本程度（当時）の企画のうち、少々変わった路線として僧侶の特集号なども

走っていて、鎌倉新仏教の開祖らに加え、私自身「空海」の制作にあたったこともある。

この頃はちょうど、アメリカ同時多発テロ事件の勃発（二〇〇一年）、小泉純一郎内閣総理大臣（当時）による平壤訪問（二〇〇二年）、イラク戦争（二〇〇三年）など世界中が騒然とするような事態が続く中、日本の立ち位置が見えにくくなっていく時期で、そんな雰囲気からか、こんなビジュアル誌でも親鸞や日蓮といった特集が受け入れられたのかもしれない。

ただし、美術書全般で見れば、日本美術への読者ニーズが高まっていて、特に江戸絵画の分野は巷の展覧会とも連動し、関連書籍がよく動いた。しかし、制作者としての私には、美術史の語り方がどうにも腑に落ちないこ

とが度々あり、新書『俵屋宗達』(古田亮著)も手掛けてみ

たけれど、その感覚はなかなか埋まらず、次第にストレスが溜まっていく。特に、美術史を日本歴史に照らした時室町、戦国、江戸あたりの時代区分とその理解には、如何ともしがたい大きな隔たりを感じるようになっていた。

実はこの頃、別の切り口をもとめてたどり着いたのが、別冊太陽「戦国大名」だ。二〇〇九年当時、流行し始めていたパートワーク(分冊百科)シリーズなどを睨んでの企画で、一冊でわかる「ビジュアル版戦国史」を目論んだ。監修の依頼のため、池袋駅近くの喫茶店で日本中世史家の黒田基樹氏(現駿河台大学教授と面会したが、企画書にひと通り、眼を通されたその場であっさり断られた。しかし、その理由に心当たりがあったので、後日、修正案を示し直し、引き受けていただいた。

二人で約したのは、たんなる歴史年表の羅列に終わらせず、〈歴史〉で明らかにすべきことは何か、というヴィジョンをしっかりと掲げようということだった。「兵士はどこから来て、どこに消えたのか」「社会から戦争がなくなる」といった現象は何を意味するのか、そういった問題提起を念頭に制作された本誌は、当時として

もかなり斬新な設定だったし、いま一部の歴史愛好家の間で起こっている“室町ブーム”に与した関連書の先駆的な位置づけだったといえるかもしれない。そして、この経験が下地となり、のちの《中世から近世へ》シリーズに展開していく。だが、そこからシリーズ発刊まで、七年の歳月を要した。

新しい読者層に出会う

それから間もなく、二〇一一年三月には東日本大震災が起こり、その経験は、多くの日本人の生き方や価値観に影響を与えた。その後、年を追うごとに不安や焦りのようなものが募り、社会に浸透していったことは周知のとおりである。それはちょうど、私がコロナ・ブックス編集部を預かる身となった頃で、何かしら「日本を見直す」風潮が高まり、〈歴史〉を語る声が大きくなりつつあった。あまり認めたくはないけれど、私たちは見落としてきたものがあったのではないかと、世間にはそういう思いがあったのかもしれない。また、ある人びとは「あったはずの日本」を探して、その答えを〈歴史〉に

もとめたのかもしれない。

おそらくはその影響で、歴史関連といわれる書籍が
続々刊行されたものの、その粗製乱造ぶりはご存じのと
おりで、いろんな意味で「自由」過ぎるものに溢れてい
く。だが一方で、歴史文化ライブラリー（吉川弘文館）や
講談社選書メチエ、中公新書といった信頼の厚いシリ
ーズにおいて、歴史分野がより充実しつつあることも見え
ていた。

いつの時代も〈歴史〉は人びとの最大の関心事である。
けれども、閉塞感が漂うこの状況下で、歴史書がいつも
よりもとめられていることは確かのようにだ。ただ、読者が
そこに何を見たがっているのか、ずっと掴みかねていた。

しかし、二〇一六年放映の大河ドラマ「真田丸」が転
機となる。このドラマ自体の脚本・演出の鮮やかさ、史
実の投影手法に賞賛が集まったことは記憶に新しい。さ
らに、あの時起こった丸島和洋氏（「真田丸」時代考証担当）
と視聴者とのSNS上でのやり取りは、いまでも語り草に
なるほどの「現象」で、私がそこに感じたのは、大河ド
ラマも見る／歴史書も読むといった愛好家たちが、素
直に「新しいものを見たがっている」ということだった。

多少の知識不足などものともせず、自らの見解を披露し、
止まぬ好奇心から次々と知識をバージョンアップしてい
くやり取りを目の当たりにし、私は当時、これまで顕在
化することのなかった新しいファン層の出現を見る思い
であった。

どちらかといえば、古臭いイメージのある歴史分野に
おいて、あからさまに新味が望まれている——このこ
とに自覚が持てたのは、そうした状況を見据えてからで、
これようやく歴史書のシリーズ化に手をつけようと決
めた。

シリーズの意図と方針

そして本シリーズである。このシリーズは二〇一七年
七月、二冊同時刊行でスタートした。現在までのライン
ナップは次のとおりである（敬称略。所属・肩書は二〇一九
年六月現在）。

『徳川家康——境界の領主から天下人へ』（柴裕之・東洋

大学非常勤講師）

『羽柴家崩壊——茶々と片桐且元の懊悩』(黒田基樹・駿河台大学教授)

『兵農分離はあったのか』(平井上総・藤女子大学准教授)

『武田勝頼——試される戦国大名の「器量」』(丸島和洋・東京都市大学准教授)

『北条氏康の妻瑞渓院——政略結婚からみる戦国大名』(黒田基樹)

『秀吉の武威、信長の武威——天下人はいかに服属を迫るのか』(黒嶋敏・東京大学史料編纂所准教授)

『豊国大明神の誕生——変えられた秀吉の遺言』(野村玄・大阪大学大学院文学研究科准教授)

『松永久秀と下剋上——室町の身分秩序を覆す』(天野忠幸・天理大学准教授)

『撰銭とビター文の戦国史』(高木久史・安田女子大学准教授)

『鳥居強右衛門——語り継がれる武士の魂』(金子拓・東京大学史料編纂所准教授)

『今川氏親と伊勢宗瑞——戦国大名誕生の条件』(黒田基樹)

『楽市楽座はあったのか』(長澤伸樹・仙台市博物館嘱託)

『前田利家・利長——創られた「加賀百万石」伝説』
(大西泰正・石川県金沢城調査研究所所員)

ここまで十三冊が世に送られ、本年秋には『徳川家康の遺言と神格化』(仮題)の刊行を予定しており、さらに続刊準備中という状況である(二〇一九年六月現在)。すべて書き下ろしで、いまのところ、かなりのハイペースで刊行が実現できている。

本シリーズ着想の発端は実に単純で、「戦国時代と江戸時代の違いは何か」という問いだった。これをいい直すと「中世と近世を隔てているものは何か」となり、そこに触れることが〈歴史〉の本質につながるのではないかと考えた。実際、日本における近世の成立要件といわれるものがいくつかあるのだが(「兵農分離」など)、これが昨今の研究成果によりことごとく覆され、その境界は相当あいまいになりつつあるらしい。この視点は黒田基樹氏から受けたご指導によるところが大きいが、つまるところ、歴史の叙述というのはどうしても「変わったもの」「ばかりを取り上げ、並べることに偏りがちになるもの」、一方で「変わらなかったもの」「変えられなかつ

たもの」もあって、そこも意識しつつ、その時代の特徴や葛藤を探る方が、より広い視野で〈歴史〉を見通すことができるに違いないという見立てである。

「世の中には強者と弱者がいて、強者が弱者を傘下に収めました。そして天下人を目指した結果、新しい社会ができました……」

こんなことでよければ話は簡単である。しかし、いま〈歴史〉に問うべきは、強者と弱者が同じ時間や空間に共存したのはなぜか、いや、共存しているように見えるのはなぜか、ではないだろうか。極論すれば、武将の誰それが勝ったとか、負けたとかはどうでもよい。逆に、殺し合いにまで至らない状況をつくるために、人はどのような叡智を見せるのか、そういう場面にできる限り接したい、思いを致したいと構想されたのが本シリーズである。私が歴史分野に期待すること、読者に投げかけたこととは、まさにそれだった。この方針を掲げ、執筆陣の候補を挙げていき、一人ひとりに面会を願い、ご賛同いただいた方にのみ、その任を引き受けていただいた。こうした前提があるので、執筆者のみなさんは「新発見」や「新知見」の披露ばかりを競っているわけではな

い。〈歴史〉を単線的な発展とは捉えず、もう一段の高みから人物や事象を見渡し、評価する姿勢を貫いてもらっているだけだ。例えば、そこには“揺り戻し”という現象もありうるだろう。けれども、それを後退ととるのか、あるいは生き残りのための選択ととるのか、それだけでまったく違った解釈が成り立つ。そうした現象の積み重ねがどのような結論へと導かれるのか、研究の最前線に立つ専門家（著者）たちの思考プロセスにこそ、本シリーズにおけるテキストの価値があり、〈歴史〉に対する新しい感覚が味わえるはずだ。

ところで、この手のシリーズに監修者を置かないのは“常識破り”と受け取られるかもしれない。しかし、立ち上げ当初からその考えはなかった。結論からではなく、著者との対話から浮かび上がる疑問をスタートとするため、どうしても編集主導にならざるをえない。もちろん、既存のシリーズがセオリーであることに異論はない。ただ〈歴史〉はいま、問われる質やステージが変わったと感じたため、方針や運営手法も従来型から離れてみようと考えた結果である。

その意味で、他書との差別化を図るために、装幀でも

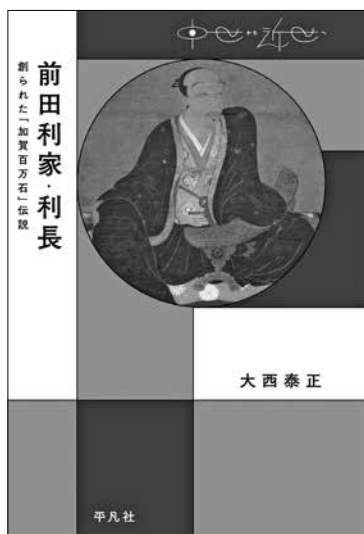
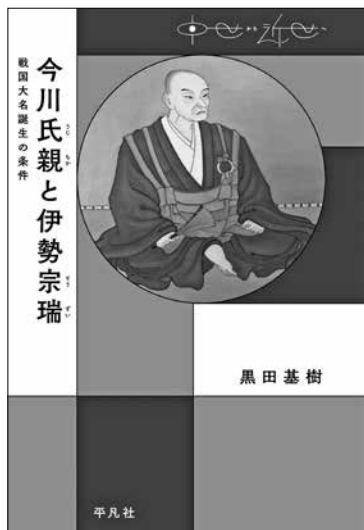
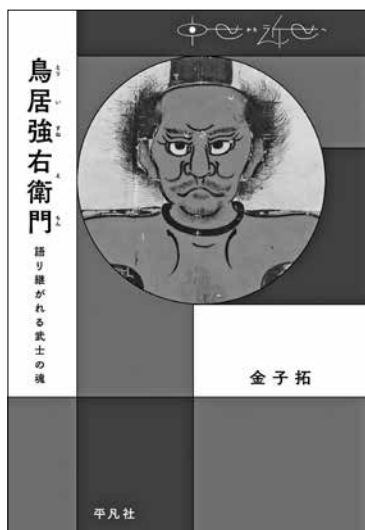
表現できることを試みた。現在、グラフィックデザイン界で最も注目を集める大原大次郎氏を起用し、いわゆる歴史書らしからぬものに仕上げた。シリーズロゴなども作成したため、「斬新」「キワモノ」「銜^てい」「極端」など意見はさまざまだと思うが、このデザインを採用することにも当然メッセージが込められているわけで、シリーズが成立する条件として、そのウエイトは最初から高かった。何かしら読者の気持ちを高揚させる要素となってくればと思う。

「場」を保障する役目

娯楽から学びまで、本にはさまざまな役割があるけれど、歴史関連の書籍は、論集や概説書、作家による作品から旅情を誘う雑誌に至るまで、かなり荒っぽくひと括りにされてきた。それだけ懐の深い分野だという証しでもあるが、しかし何かにつけ、エビデンスがもとめられる今日では、〈歴史〉に対する新しい見え方、新しいスタンスを語るにも、それに見合う「場」の保証が必要とされているようにも感じている。

その場が仮にシリーズという器^{ぐら}だとすれば、そこをできる限り、公平に、公正に保ち、何にも臆することなく発言（執筆）できる機会を提供すること、これが本シリーズにおける私の本当の役目となる。それには会社の理解が必要であるし、シリーズを維持すること自体が至難の業だということも承知している。しかし、継続させるためには、「ここに来れば、語るに値するものが見つかる」という読者の期待や信頼を得るための努力は続けていきたい。

そして、私のささやかな野心は、いま中高生くらいの子どもたちが、何かの間違いでこのうちの一書でも手に取ってくればということだ。本とは、こうした予期せぬ出逢いから何かを引き起こす不思議な存在でもあるわけで、そこには大いに期待している。そして、彼らのうちの誰かが、今後二十年のうちに、ここで立てられた論をことごとく蹴散らし、日本の歴史に潜む新しいフェイズを浮かび上がらせる——そんな“暴挙”に及んでくれたら、私としては本望だし、そうなることを切に願っている。



《中世から近世へ》シリーズ(近刊から。本体価格1700～1900円)
 点と線と面の、ごく単純な要素で組み立てられたブックデザイン。
 一方、ロゴデザイン(各書影右上)は手書き風で、時間軸の連なり
 を横軸に捉え、うねり・迂回・断絶・越境しながら「今ここ」へと
 接続するような線で構成、本シリーズの〈歴史〉へのアプローチそ
 のものを半ばアイコン的に表わしている。

な形で研修を行っていきます。特に売場の縮小、販売スタッフの減少などの逆風にさらされている販売現場の皆様と一緒にどうやってお客様に商品を届けるかを考えていければと思っています。

ここ数年、出版物流の危機が語られ、それに対応する形で日々様々な変化が生じています。こういった事態にどう対応していくか「調査」をし、会員社内・外問わず共有して会活動、また会員社の判断に役立つような機会を提供していきたいと思っています。通常の活動や活発な意見交換を通じて出版社団体としての力を蓄えていきたいと思っています。

今期もどうぞよろしくお願いいたします。

委員長 水口大介(創元社)
副委員長 片山伸治(吉川弘文館)

西野浩文(勁草書房)
澤畑 壘(東京大学出版会)

広報委員会

委員長 岩野忠昭

広報委員会の活動の柱は『人文会ニュース』の発行とウェブサイトの運営です。

前期の『人文会ニュース』は例年どおり年3回(8月、12月、4月)、発行いたしました。今期もそのペースを崩すことなく、3回発行することを目指します。

同誌の主たるコンテンツ、「15分で読む」「書店現場から」「図書館レポート」は、お陰様で前期も書店・図書館の方から好評をいただき、今期も充実した内容を揃えたいと考えています。人文会の活動を広く知らせるという役割を踏まえつつ、書店や図書館の人文書担当の方に少しでも興味を持っていただけるよう、そして日常の業務に大いに役に立つようなコンテンツを提供していきたいと考えています。

人文会ウェブサイト(<http://www.jinbunkai.com/>)は、人文会と会員各社の情報提供の場としてさらに内容の充実を目指します。役に立つ情報をスピーディーに発信することを目標に、まだまだ改善の余地が残っていますので、皆さまのご批正をお願いする次第です。

紙媒体とウェブ媒体というそれぞれの特性を活かし、また補完し合いながら、人文会と人文書の普及、発展を目指したいと考えていますので、今期もよろしくお願いいたします。

委員長 岩野忠昭(白水社)
副委員長 乙子 智(慶應義塾大学出版会)

吉岡 聡(春秋社)
藤井若菜彦(筑摩書房)
本橋弘行(ミネルヴァ書房)

委員会活動方針

販売・企画委員会

委員長 朝倉哲哉

先期は人文会設立50周年ということで、大型書店様を中心に「人文会50周年フェア」の開催にご協力いただきました。十分な準備と綿密なやり取りをさせていただいたことで、会員各社の既刊・新刊を多くの読者にPRできる貴重な機会となりました。フェアの実績と経験は今後の糧とし、これからの施策に活かしていきたいと考えております。

今期の施策としては、従来から取り組んでおります会員社のオススメ書籍を一覧にした「今月の一押しFAX」、テーマに沿った選書をまとめた「ベストセクション」を、さらに多くの書店様に活用いただけるよう魅力ある内容にしていきます。また、3年連続で作製した「高校生のためのブックガイド」も新たな読者獲得の重要ツールとしてより多くの書店様・図書館様に活用いただけるよう努めて参ります。

業界における厳しい状況は続いておりますが、書店様・販売会社様との連携をより一層強固なものとし、一社ではできない、人文会だからできることを引き続き提案していきたいと思っております。今期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

委員長 朝倉哲哉(法政大学出版局)

佐藤信治(大月書店)

副委員長 森 卓巳(青土社)

志田則幸(紀伊國屋書店)

五月女公(日本評論社)

登尾純一(平凡社)

調査・研修委員会

委員長 水口大介

調査・研修委員会の活動は多岐にわたりますが、毎年実施しているものに「特約店グループ訪問」があります。これは会員社を4グループほどに分け、全国各地の書店様などを訪問し、情報交換や研修を行うものです。今年度はすでに実施済みで「北海道」「愛知・京都」「大阪・兵庫」「徳島・香川・高知」を訪問させていただきました。訪問先で様々なご意見をいただきながら日々の会活動、また会員社それぞれの活動に役立てていきます。

それ以外にも関係各所、または会員社内での「研修」も行っております。ここ数年は販売会社様・図書館様・新聞社様との研修を行ってきました。今期も同様に様々

☆3月例会

期日：2019/3/20 15:00～17:00

場所：筑摩書房 会議室

欠席：未来社(水谷)

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

●4/1「高校生のためのブックガイド2019」発行 担当：東京大学出版会(澤畑)

書店外商部146営業所に4/18発送

☆4月例会

期日：2019/4/17 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

☆臨時幹事会

期日：2019/4/10 15:00～17:00

1. 来期の方向性
2. 各委員会の報告

○人文会ニュースNo.131刊行

2019/4 発行

15分で読む：橋元博樹(平成の「出版界」、東京大学出版会)

書店現場から：伊藤晃・有地和毅(文喫 六本木)

図書館レポート：大林正智(田原市中央図書館)

編集者が語る：『中井久夫集』守田省吾(みすず書房)

●三省堂書店札幌店フェア 担当：朝倉(法政大学出版局)

開催期間：2019/5/9～2か月

●有隣堂目黒店 人文会フェア 担当：登尾(平凡社)・朝倉(法政大学出版局)

開催期間：2019/5/1～5/26

●笠原書店フェア 担当：森(青土社)

開催期間：2019/5/10～2019/6/18

☆12月例会

期日：2018/12/19 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

○人文会ニュースNo.130刊行

2018/12/20 発行

図書館レポート：川崎安子（武庫川女子大学）

書店現場から：松原嘉哉（honto）

編集者が語る：『シリーズ精神医学の哲学』住田朋久（東京大学出版会）

2018研修旅行報告

2018年特約店グループ訪問報告

☆人文会 2019年1月例会

期日：2019/1/16 15:00～17:00

場所：春秋社 6F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

○人文図書目録刊行会編集会議

期日：2019/1/25 15:30～17:15

場所：トーハン本社 7F応接室

参加者 事務局：株式会社トーハン 大久真樹氏

代表幹事：田崎 哲学・思想：朝倉・片桐・澤畑（欠席）

社会：平石・三上・西野 心理：水口・五月女

☆人文会 2月例会

期日：2019/2/20 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

●紀伊國屋書店札幌本店 人文会50周年記念フェア 担当：志田（紀伊國屋書店）

開催期間：2019/2/1～2/28（1階で展開）その後2階にて継続展開 実売162冊

- 紀伊國屋書店新宿本店 人文会50周年記念フェア 担当：五月女（日本評論社）
開催期間：2018/10/1～10/31 実売509冊

- ジュンク堂書店池袋本店 人文会50周年記念フェア 担当：朝倉（法政大学出版局）
開催期間：2018/10/17～12/2 実売512冊

○2018年人文会秋季研修旅行

期日：2018/10/24～10/26

方面：大阪・京都

同行販売会社：株式会社トーハン 高須悠治氏（書籍部アシスタントマネジャー）／日本
出版販売株式会社 浅香健氏（マーケティング本部 係長）／株式会社大阪屋栗田 坂
野上正臣氏（MD本部仕入企画部 部長）
旅行幹事：創元社（水口）・東京大学出版会（澤畑）

- 図書館総合展 人文会ブース出展

期日：2018/10/30～11/1

会場：パシフィコ横浜

武庫川女子大学附属図書館図書課長 川崎安子氏による人文会向けレクチャー
10/31 17:00～

- 三省堂書店神保町本店 人文会50周年記念フェア 担当：森（青土社）

開催期間：2018/11/5～2019/1/6 実売3,351冊（昨年対比110.7%）

フェア連動講演会 2018/11/21 講演：高橋源一郎氏・辻信一氏『「雑」の思想』（大月書店）刊行記念

フェア終了後、同店1階に人文書話題書棚が新設、常設となる。

☆11月例会

期日：2018/11/21 13:00～17:30

場所：文化信用組合中会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. その他 情報交換

○人文図書目録刊行会総会

期日：2018/11/21 16:30～17:30

場所：文化信用組合中会議室

事務局：株式会社トーハン 藤瀬直美氏（広報室チーフ）・大久真樹氏（広報室・目録刊行
会事務局）

☆8月例会

期日：2018/8/21 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

出席者変更：筑摩書房(藤井→桃野)、青土社(森→榎本)

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. 秋季研修旅行説明
4. その他 情報交換

○人文会創立50周年記念誌『人文書のすすめ』(人文会創立50周年記念誌)制作：広報委員会
2018/9/1 8,000部発行 寄稿者：内田樹・宇野重規・大塚ひかり・川添愛・木村草太・
佐藤優・出口治明・プレイディミかこ・松岡正剛・若松英輔

○人文会ニュースNo.129刊行

2018/8/3 発行

15分で読む：倉本一宏(天皇の歴史、国際日本文化研究センター)

書店現場から：石崎久康(未来屋書店)

図書館レポート：河合郁子(石川県立図書館)

☆9月例会

期日：2018/9/19 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事より
2. 各委員会活動報告
3. 秋季研修旅行説明
4. その他 情報交換

○出版広告研究会Bグループとの意見交換 16:00～17:00

東奥日報社 金谷有紀子氏／南日本新聞社 山城裕司氏／下野新聞社 渡邊直樹氏／福島
民報社 谷川佳宏氏／静岡新聞社 平戸奈央氏／北國新聞社 熊野直弥氏／奈良新聞社
北田亜伊氏／みなと山口合同新聞社 下村太郎氏

●丸善京都本店 人文会50周年記念フェア 担当：澤畑(東京大学出版会)

開催期間：2018/9/20～11/30 実売323冊

●ジュンク堂書店福岡店 人文会50周年記念フェア 担当：水谷(未来社)

開催期間：2018/10/1～11/31 実売589冊

※販売企画委員会朝倉委員長・澤畑委員よりドロップボックス活用における業務軽減策

○特約店グループ訪問

- ・ 5/31～6/1 山梨・長野グループ：◎春秋社(吉岡)・○晶文社(片桐)・日本評論社(五月女)・法政大学出版局(朝倉)・ミネルヴァ書房(須藤)
 - ・ 6/14～6/15 静岡グループ：◎白水社(岩野)・○御茶の水書房(平石)・筑摩書房(藤井)・平凡社(登尾)・未来社(水谷)
 - ・ 6/28～6/29 茨城・栃木グループ：◎大月書店(佐藤)・○創元社(水口)・慶應義塾大学出版会(乙子)青土社(森)
 - ・ 6/28～6/29 新潟グループ：◎吉川弘文館(片山)・○勁草書房(西野)・紀伊國屋書店(志田)・東京大学出版会(澤畑)・みすず書房(田崎)
- (◎班長 ○副班長)

○人文三目録 リニューアル会議

期日：2018/6/7

場所：トーハン6階応接室

出席者：トーハン 藤瀬氏・大久氏／人文会 田崎・平石・片桐・岩野・朝倉

○日販王子流通センター見学会

期日：2018/7/9 15:00～17:00

場所：日販王子流通センター

案内者：日販 大熊裕太氏(王子流通センター在庫センター長)・丸山周作氏(在庫センター学参・専門書係長)・吉田麻由子氏(在庫センター学参・専門書係)／人文会参加者(32名)

☆7月例会

三役で株式会社筑摩書房代表取締役社長 喜入冬子氏にご挨拶

期日：2018/7/18 15:00～17:30

場所：筑摩書房

出席者変更：筑摩書房(藤井→桃野)

1. 代表幹事・幹事会より
2. 各委員会活動方針
3. 特約店グループ訪問報告
4. 哲学思想目録リニューアル進行について

●徳島大常三島店 人文会ベストセクションフェア「人類の歴史」

担当：五月女(日本評論社)

開催期間：2018/8/1～

委員会の構成メンバーを選考。

以下の人事を決定。

9 2018年度の役員および各委員会メンバーの発表

- ・代表幹事 田崎 洋幸(みすず書房)
- ・会計幹事 平石 修(御茶の水書房)
- ・書記幹事 片桐 幹夫(晶文社)
- ・販売・企画委員会 ◎朝倉 哲哉(法政大学出版局) ○森 卓巳(青土社)・水谷 幹夫(未来社)・志田 則幸(紀伊國屋書店)・森 卓巳(青土社)・澤畑 壘(東京大学出版会)・五月女 公(日本評論社)・登尾 純一(平凡社)
- ・調査・研修委員会 ◎水口 大介(創元社) ○片山 伸治(吉川弘文館)・西野 浩文(勤草書房)・藤井 若菜彦(筑摩書房)
- ・広報委員会 ◎岩野 忠昭(白水社) ○乙子 智(慶應大学出版会)・佐藤 信治(大月書店)・吉岡 聡(春秋社)・須藤 圭(ミネルヴァ書房)

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

10 三役と各委員長挨拶

11 退任者、新担当者挨拶 濱田太一(誠信書房)・登尾純一(平凡社)

17:00 終了

総会幹事：片山(吉川弘文館)・佐藤(大月書店)

○「高校生のためのブックガイド2018」2018/4/27 17,000部発行

日販図書館選書センター・TRC・書店外商部・展示会等で活用。担当：東京大学出版会(澤畑)

●笠原書店専門書フェア 担当：青土社(森)

開催期間：2018/5/9～6/30 53日間

場所：笠原書店本店1階レジ前

57タイトル・125冊254,950円実売(昨年対比156%)

平均単価2,040円

☆6月例会

期日：2018/6/20 15:00～17:00

場所：筑摩書房 4F会議室

1. 代表幹事・幹事会より
2. 各委員会活動方針
3. 特約店グループ訪問進行状況確認
4. 情報交換

2018年度(2018.5～2019.4)人文会活動報告(全般)

書記幹事 片桐幹夫

☆第51回(2017年度)人文会総会

期日：2018/5/16

場所：文化産業信用組合本部会議室

出席者：正担当者19名 復会社1社2名 計21名

14:00開始

総会の開催

1 代表幹事挨拶

2 総会議長選出

* 総会議長は慣例に従い前年度の書記幹事(片桐)が務める。

3 2017年度活動報告

ア) 会活動全般 (書記：片桐)

イ) 会計報告 (会計：平石)

4 2017年度各委員会活動報告

ア) 販売・企画委員会 (委員長：朝倉)

イ) 調査・研修委員会 (委員長：水口)

ウ) 広報委員会 (委員長：岩野)

5 会則の改廃

* 今回は変更の申請なし

6 休会・入会の承認・報告

・休会の報告：誠信書房 復会：平凡社

7 担当者変更会員社の紹介 なし

8 役員の改選及び各委員会構成について

ア) 代表幹事選出

議長より田崎氏を推挙。全会員賛同にて田崎代表幹事留任を決定。

イ) 選考委員選出

出席者による2名連記投票で票数の多い上位4名を選出。

片桐・朝倉・水口・森の4名が決定。

ウ) 書記幹事、会計幹事および各委員会委員長名を選出 【別室】

選出された選考委員4名と代表幹事の計5名にて協議。以下の人事を決定。

会計(平石)／書記(片桐)／販売・企画(朝倉)／調査・研修(水口)／広報(岩野)

エ) 各委員会の構成メンバーの選任 【別室】

* 選出された幹事(代表幹事、書記、会計と3委員長)により各員の希望も考慮し、

2018年度(第52回)人文会年次総会報告

書記幹事 片桐幹夫

2018年度(第52回)の人文会年次総会は、2019年5月15日、「文京シビックセンター会議室2」において全会員社出席のもとに開催されました。

議事は、2018年度(2018年5月1日～2019年4月30日)の活動報告(全般)から始まり、会計報告、次いで「販売・企画」「調査・研修」「広報」の各委員会報告および質疑応答、承認と続き、新年度に向けての役員改選及び各委員会所属メンバーを決定し、無事終了いたしました。

代表幹事には、昨年度に引き続き、全会一致で田崎洋幸氏(みすず書房)が選出されました。

会計幹事は平石修氏(御茶の水書房)、書記幹事は片桐幹夫(晶文社)が選出(いずれも留任)されました。委員会構成は昨年同様、「販売・企画」「調査・研修」「広報」の三委員会体制で会活動にあたることを確認しました。

各委員長(幹事)は、朝倉哲哉氏(法政大学出版局)が販売・企画委員長(留任)、水口大介氏(創元社)が調査・研修委員長(留任)、岩野忠昭氏(白水社)が広報委員長(留任)に選出されました。

また、未来社の退会、誠信書房の休会が承認されました。

なお、各委員会の構成は、巻末の「人文会名簿」をご参照ください。

人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷2-20-7 みすず書房内

2019年8月現在

社 名	担当者	〒	住 所	電 話	FAX
大 月 書 店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-27-16 2F	3813-4651	3813-4656
御 茶 の 水 書 房	平石 修	113-0033	文京区本郷5-30-20	5684-0751	5684-0753
紀 伊 國 屋 書 店	志田 則幸	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3122
勁 草 書 房	西野 浩文	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春 秋 社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶 文 社	片桐 幹夫	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠信書房(休会中)		112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青 土 社	森 卓巳	101-0064	千代田区神田猿楽町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創 元 社	水口 大介	101-0051	千代田区神田神保町1-2 田辺ビル	6811-0662	3219-7800
筑 摩 書 房	藤井若菜彦	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	澤畑 壘	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日 本 評 論 社	五月女 公	170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白 水 社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平 凡 社	登尾 純一	101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	朝倉 哲哉	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
み す ず 書 房	田崎 洋幸	113-0033	文京区本郷2-20-7	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	本橋 弘行	101-0062	千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング2F	3525-8460	3525-8461
吉 川 弘 文 館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事 田崎洋幸

会計幹事 平石 修

書記幹事 片桐幹夫

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

販売・企画委員会 ◎朝倉哲哉 ○森 卓巳・佐藤信治・志田則幸・五月女 公・登尾純一

調査・研修委員会 ◎水口大介 ○片山伸治・西野浩文・澤畑 壘

広報委員会 ◎岩野忠昭 ○乙子 智・吉岡 聡・藤井若菜彦・本橋弘行

人文会ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>

(各種情報／各社へのリンクはこちらからどうぞ)

創元社

最新刊!

イラスト授業シリーズ
ひと目でわかる
体のしくみとはたらき図鑑
食へのしくみとはたらき図鑑
心のしくみとはたらき図鑑

心の病を支援する臨床心理学をはじめ、身近な人間関係から学校・職場・地域社会・産業・文化など、心理学の広大な領域をカラフルなイラストと解説でやさしく学べる図鑑。

▼黒木 俊秀(日本語版監修)／小野良平(訳)

大阪市中央区淡路町4-3-6

☎ 06-6231-9010 Fax 06-6233-3111

千代田区神田神保町1-2 ☎ 03-6811-0662

巻 A4判変型・上製・256頁
各定価 本体2800円＋税

今和泉隆行

本体価格1900円＋税

地図上で色濃くなっている所には人が集まる!?
地図界の鬼才が、誰でも感覚的に地図を把握で
きるようになる技術をカラー図解で詳説。

「地図感覚」から
都市を読み解く
新しい地図の読み方

重版出来!

晶文社

〒101-0051 千代田区神田神保町1-11

Tel.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944

孤高の天才数学者、初の本格評伝
クロード・シャノン
情報時代を
発明した男

ネットも携帯電話も今日のデジタル世界をまるごと
構想した男。その影響力はアインシュタイン以上だ。
シミーン／ロブグッドマン 小坂恵理 訳 2600円

筑摩書房

営業部 03-5687-2680

*定価は表示価格＋税

<http://www.chikumashobo.co.jp/>

アフター・カルチュラル・スタディーズ
吉見俊哉
カルチュラル・スタディーズの発端から、日本における受容と創造、そして
これからの展望までを一気に見渡す。 2600円
真昼の盗人のように スラヴオイ・ジジエフ
ポストヒューマニティ時代の権力
米・トランプ、北朝鮮・金正恩、仏・マクロンなど、現代の国際政治を狙
いのせた、最新の世界時評。 2600円
分解の哲学 藤原辰史
歴史学、文学、生態学から在野の実践知までを横断する、〈食〉を思考
するための新しい哲学。 2400円

青土社

東京神田神保町 ☎ 03-3294-7829

<http://www.seidosha.co.jp/> (価格税抜)

モンテーニュ の言葉

人生を豊かにする365の名言

久保田剛史 編著 宮下志朗 訳
古典的名著『エッセー』の真髄をこの
一冊で。[8月下旬刊] 1800円+税

寝るまえ5分のモンテーニュ
「エッセー」入門

アントワヌ・コンパニョン 著
山上浩嗣、宮下志朗 訳 1800円+税

エッセー 全7巻

ミシェル・ド・モンテーニュ 著
宮下志朗 訳

各巻 2100円+税~2600円+税

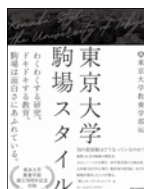
白水社 東京都千代田区神田小川町3-24
tel.03-3291-7811 / fax.03-3291-8448

東京大学 駒場スタイル

東京大学教養学部 編

2500円+税

知の最前線はどうなっているのか？44名の研究者に加えて、ノーベル賞受賞者の大隅良典、批評家の東浩紀など、駒場が輩出した人々が贈る「紙上オープンキャンパス&ホームカミングデー」。



東京大学
教養学部
創立70周年
記念出版

東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991
<http://www.utp.or.jp/>

前田利家・利長

人気シリーズ「中世から近世へ」の最新刊

創られた「加賀百万石」伝説

遺言状にまつわる利家伝説の数々、一向一揆との本当の関係、利家・利長親子による特殊な二重支配などを探ること、前田家の実像を解明しつつ、加賀百万石誕生の秘密に迫る。



四六判 320頁 本体1800円+税

平凡社 〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-29
tel 03-3230-6573 fax 03-3230-6587
<https://www.heibonsha.co.jp>

「助けて」 が言えない

SOSを出さない人に
支援者は何ができるか

松本俊彦[編]

「困っていません」と言われたら？

虐待、貧困、いじめ、自傷、自殺、依存症、性被害……さまざまなフィードバックから援助と援助希求を考える。

◆1600円+税



斎藤環著
◆2000円+税

オープン
ダイアログ
がひろく
精神医療

「開かれた対話」を通じて精神疾患にアプローチする。この画期的な手法であり思想を、日本に導入すべく奔走する著者の最新論集。

日本評論社

〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
TEL:03-3987-8621 <https://nippyo.co.jp>

法政大学出版局

<http://www.h-up.com/>

《叢書・ユニベルシタス 1096》

遺産の概念

J.-P. バブロン, A. シャステル 著

中津海裕子, 湯浅茉衣 訳

世界遺産, 人類の遺産, 文化財に含まれる「遺産」とは何か。ノートル=ダムなど具体的な事例とともに紹介。文化に関わる必読文献。 2800円

《叢書・ユニベルシタス 1094》

ハイデガーニ レーヴィット往復書簡

1919-1973

A. デンカー 編/後藤嘉也, 小松恵一 訳
1919年以降, 時代の思潮や研究生活をめぐって, 師弟は赤裸々な書簡を交わし続けた。二人の哲学者の運命的な抗争と友愛を示す稀有の文書。 4000円

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
☎ 03 (5214) 5540 / 表示価格は税別です

2020年大河ドラマ主人公の謎多き生涯

明智光秀・秀満

小和田哲男 ● ときハ今あめが下しる五月哉 主君信長へ謀反を起こした光秀とその女婿秀満。謎に包まれた前半生、そして最大の謎、本能寺の變に至った動機と背景を解明。* 四六判・上製・296頁 本体2500円

東海の戦国史

天下人を輩出した
流通経済の要衝

小和田哲男 東海地域において、戦国時代の150年間、どのような歴史が展開したのか。信長、秀吉、家康などの天下人はなぜ東海から生まれたのか、その背景を探る。
* 四六判・上製・354頁 本体3500円

ミネルヴァ書房

京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 価格税別

ズーム・イン・ユニバース

シャーフ 宇宙の果てから素粒子の世界へ! 10の62乗のスケールをイラストでたどる 驚異の旅 佐藤やえ訳 880円

明治維新の敗者たち

ワート 歴史は勝者によって書かれる。小栗上野介をめぐる語り、勝者史観への抵抗を跡づける。野口良平訳 380円

マクヒュー／スラヴィー 現代精神医学

疾患・特質・行動・生活史の四つの「観点」から分類と治療の体系化を試みたロングセラーテキスト。澤明監訳 2800円

政治的イコノグラフィについて

ギンスブルグ イメージがいかに政治的なもので、権力を発揮するかを明す歴史家の図像学的探究 上村忠男訳 880円

ロイヤルスタイル 英国王室

ファッション史



中野香織著 威光と親しみやすさを共存させてきた英王室の歴史と文化、そして気高い生き方を考える。 2200円

「大化」から「令和」まで、いつ、誰が、なぜ、どのように決めたのか?

事典 日本の年号

小倉慈司著 2600円

二四八すべてを平易に紹介。年号ごとに在位した天皇、改元理由などを明記し、年号字の典拠やその訓みを解説する。

吉川弘文館 東京都文京区本郷 7-2
☎ 03-3813-9151 税別

みすず書房 (税別)

東京本郷2-20-7 <https://www.ms2.co.jp>

御茶の水書房

バックスアメリカカーナのアキレス腱
グローバルな視点から見た米軍
地位協定の比較研究

佐々山泰弘 著 菊判 三〇四頁 本体五五〇〇円

日本を含む主要米軍受入12か国地位協定を24項目徹底比較から見た差異とその歴史の変遷を辿り、何故に各国で差異が生じたのかを究明。

「発展の法則」と日本農業

犬塚昭治 著 菊判 五〇六頁 本体八八〇〇円

日本はまれにみる高度成長のチャンスを活用して農民のいわば構造的脱農業化を長期にわたって実現した。

東京都文京区本郷5-30-20 ☎03(5684) 0751

半藤一利の戦争体験を描いた初の絵本！
「戦争だけは絶対にはじめてはいけない」

焼けあとのちかい

開戦から次第に苦しくなる下町の生活、疎開、勤労動員、そして東京大空襲。猛火を生きのびた半藤少年は焼けあとでちかった――。

半藤一利 文 塚本やすし 絵
B5判・1500円

ふるさとって 呼んでもいいですか

6歳で「移民」になった私の物語

ナディ 著 山口元一 解説
総ルビ／46判・1600円

東京文京 大月書店 電話03-3813-4651
本郷2-27 大月書店 3813-4651
otsukishoten.co.jp (税別価格)

目録のご案内

人文図書3分野の基本図書および最新刊を網羅した年度版の図書目録です。

- 人文図書目録刊行会発行 A5判・平均200頁 頒価本体(各)286円



- ◆ 哲学・思想図書総目録
2019-2020 年版
巻頭特集：書店員が選ぶ哲学・思想のおすすめ図書30選
〔掲載分野〕 哲学・思想一般／倫理学／人生論／美学／日本の哲学・思想／アジアの哲学・思想／中近東・中南米・アフリカの哲学・思想／西洋哲学・思想／現代哲学・思想／宗教一般／宗教学／その他の宗教／哲学・思想関連雑誌
ISBN978-4-915268-43-4

- ご注文は書店にお願いいたします。
- 人文会
〒113-0033
東京都文京区本郷2-20-7 (みすず書房内)
- 人文図書目録刊行会
〒162-8710
東京都新宿区東五軒町6-24(トーハンビル内)
TEL 03-3266-9521 (事務局)



- ◆ 心理図書総目録
2019-2020 年版
約2500点(99社)収載
〔掲載分野〕 心理総論／基礎心理／発達心理／教育心理／臨床心理／精神分析／精神医学／社会心理／その他の心理／心理関連雑誌
ISBN978-4-915268-44-1



- ◆ 社会図書総目録
2019-2020 年版
約2250点(120社)収載
〔掲載分野〕 社会一般／社会学理論／家族社会／地域社会／産業労働／福祉／教育／社会心理・マスコミ／社会問題／文化文明論／文化人類学／民俗学／神話・民話／社会関連雑誌
ISBN978-4-915268-45-8

2019年8月25日発行 年3回発行 第132号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉